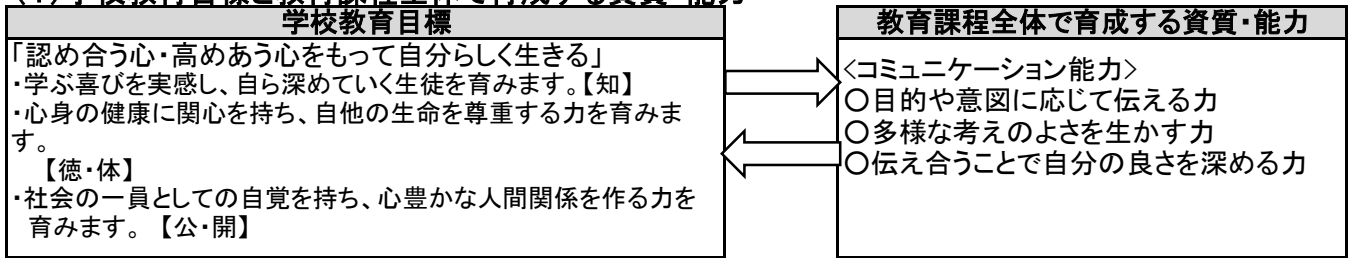


横浜市芹が谷中学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成する資質・能力



(2) 中期取組目標

中期取組目標
○人との関わりの中で自分を高め、社会の中で幸せに生きる生徒の育成を目指します。 ・職員相互の信頼と協力、地域や協力機関との積極的な連携によって教育愛と活気ある学校づくりを目指します。 ・授業方法の改善や特別支援の視点を取り入れた指導により、生徒の確かな学力と自己有用感の向上に努めます。 ・人権の尊重や教育相談などの共感的生徒理解の充実に努め、誰もが安心して過ごせる学校づくりを推進します。 ・横断的な教科の学習や協力機関の連携により、多様な文化や様々な人々と共生していく生徒の意識を育成します。

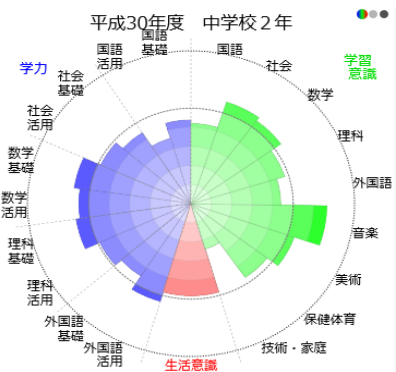
(3) 学力の向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①授業のユニバーサルデザイン化およびTT体制の充実にて、生徒の達成感の伸長を目指した授業改善に努めます。 ②生徒の実態を把握しながら分かる授業を目指し、学習意欲を高めます。 ③横断的な教科の学習を通して、主体的に判断し実行していく資質・能力を育成する。
担当	学習指導部

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

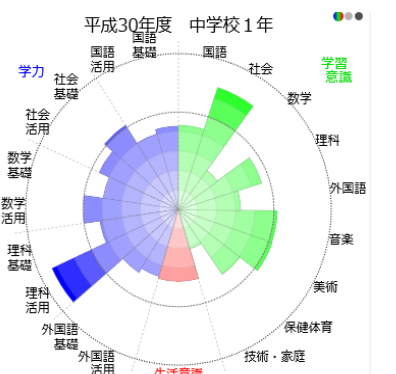
(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には横浜市の平均到達度を下回って教科が多い。教科ごとの基礎・基本問題と活用問題の正答率を見ていくと、現3年生は数学・理科は基礎・基本が上回り、習得した知識や技能を実生活の様々な場面に応用する活用力もよくなっている。外国語も活用力は上回っている。他の教科では基礎・基本問題の定着が課題とみられる。現2年生は、基礎・基本問題が上回っているのが社会、活用は理科がかなり上回っている。基礎・基本を図りながら、あわせて思考力・判断力・表現力を育成していく必要がある。学んだことを使って問題解決する場面や実生活にあった内容も増やしていきながら授業展開を工夫し、授業改善を進めていきたい。



(2) 学習意識・生活意識と学力との関係による分析

横浜市と比較して、学習意識は教科によって差があるが、全体的に低い傾向が見られる。各教科とも学習意欲を喚起する必要がある。また、「学校の授業は分かりやすいですか」という質問に現3年生は「よく分かる」「だいたい分かる」と回答している生徒は上回っているが、現2年生は下回っている。また、家庭での勉強時間も同様の傾向が見られる。どの教科においても学習意欲を高めていく授業を工夫し、家庭学習の習慣を身に付けさせていくための方策を考えていく必要がある。また、「携帯電話やスマートフォンをどのくらい使っていますか」の質問に、現2年生は「3時間以上」と回答した生徒が4割もいることも問題である。生徒の生活実態も踏まえて、よりよい生活習慣、学習習慣を身に付けさせていきたい。



3 令和元年度 領域・各教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
国語	情報を読み取る力 伝える力(特に書く力)	・生徒の興味を高める工夫をする。 ・アクティブラーニングを効果的に取り入れる。 ・短作文、型のある作文に数多く取り組む。	アクティブラーニングを効果的に取り入れ、生徒の興味を高める工夫をするとともに、基礎基本の定着に力を入れる。また短作文、型のある作文に数多く取り組む。
社会	資料を活用し読み取ったり考察する力	地図やグラフ、写真などの資料を活用し、特色や他との関連に気づかせたりする場面を設定する。	地図やグラフ、写真などの資料から、考察や説明、議論などの学習活動を設定する。
数学	課題に対応する力	言葉や数、式などを用いて数学的事象や事柄を簡潔・明瞭・的確に表現できるような授業を設定する。	事象を、数量や図形などの関係に着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて論理的に考えるられるような授業を設定する。
理科	メタ認知する力	実験の計画や結果の説明をする活動を取り入れ、仮設の議論や結果の共有、考察等において共同的に学び思考力を高める授業を設定する。	生徒が学習の見通しを持ち、実験の計画や結果の説明をする活動を取り入れ、仮設の議論や結果の共有、考察等において共同的に学び思考力を高める学習活動を
音楽	伝え合うことで自分の考えを深化させる力	生徒同士が音楽表現について意見交換する場を意図的に設置し、よりよい表現を目指すことのできる学習展開をする。	音楽表現について考え、意見交換できる場を意図的に設置し、さらによりよい表現を目指すことのできる学習展開をする。
美術	自然を見つめ 自分を発見する力	自然の中で経過する時間の中に興味関心のある課題を発見し、学習課題の理解、技法理解などを行い、創造活動の喜びを味わえる学習を展開する。	身体性を大切に作品制作や美術作品の鑑賞学習を行いながら、ものの見方や自分の生き方を考えることができる学習活動を展開する。
保体	自己肯定感	生徒が学習の見通しを持ち、自らの課題を発見し、課題解決を図る取り組みを通して、運動の楽しさ、達成感を味わえる授業を展開する。	生徒が学習の見通しを持ち、自らの課題を発見し、課題解決に向けて具体的な動きを考え、実践し、運動の楽しさ、達成感を味わえる授業を展開する。
技・家	自らの課題を見つけ 解決する力	学習内容から日常生活の中の課題を見つけ、解決するために自ら工夫・創造できる実践的な方法を見いだす授業を設定する。	学習内容から日常生活の中の課題を見つけ、解決するために自ら工夫・創造できる実践的・生活に活用できる方法を見いだす授業を設定する。
外国語	伝え合うことで自分の考えを深化させる力	コミュニケーションに必要な知識や基本表現の定着を図る。	学習した内容を用いて、生徒が主体的に表現し伝え合う学習過程の改善・充実を図る。
道徳	お互いの考えを伝え合う力	主体的に考え、多面的に議論する道徳科の授業を展開する。	生徒の色々な考えを引き出し、お互いに伝え合えるような授業展開を工夫し改善を図る。
特活	お互いに認め合い 高めあえる力	体験的な活動を通して、集団への所属間や連帯感を深められるような活動を行う。	学校行事を通して、学級で課題解決に向けた話し合いや、目標設定を行ったり、役割を分担して協力して実践するような活動を行う。
総合	よりよい社会を創る 態度	実社会、実生活との関わりを重視し、探求の過程(「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ、表現」)が繰り返されるような学習を展開する。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かせる態度を養うような学習展開をする。
個別級	課題に対応する力	個々の実態に応じて授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図るようにする。	個々の実態に応じて授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図るようにする。